

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」姫路校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 8日		～	2025年 12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2025年11月8日		～	2025年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療法や運動療法などを取り入れ、活動内容がマンネリ化しないように様々な活動を実施出来る。	得意分野や日々療育情報を調べ、実施している。	各職員だけでなく、全職員で支援内容を共有し検討する機会を設けていく。
2	毎回FBを実施し、子どもの様子や家庭の様子などを情報共有する事が出来ている。	毎回のFBを続ける事で保護者様とも関係性を築いたり、最新の情報を聞き取ったりする事で次回以降の支援に活かしているように意識している。	全職員が情報を共有出来るようにツールを活用し、把握していく。また必要に応じて情報に対しての検討を行っていく。
3	参加したくなるようなイベントや支援内容の実施。	準備物や導入を考えて共有し、実施出来ている。	外部研修を開いたり、職員が研修を受けに行く事でさらに内容を充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母向けのイベント(ママカフェなど)の実施が少ない。	保護者サポートの経験が少ない職員もいる。 保護者様から必要に応じて個別での家族支援の場を設けているが、グループ単位では実施出来ていなかった。	来年度の年間計画を検討し、実施に繋げる。 保護者支援の経験が豊富な職員から実施方法や一緒に保護者様のサポートをする経験を積む機会を設けていく。
2	放デイより児童発達の子どもの利用が少ない。	事業所について地域で周知がまだまだ出来ていない。 地域の中でも児童発達段階で療育を選択するまでの判断が難しい。	事業所や療育の事を知ってもらえるようにSNSや関係機関との連携を行っていくなどから、地域に開けた事業所を目指す。 他児とも関わる機会を作り、個別療育と小集団での療育も実施していけるように検討していく。
3	園などの関係機関との連携が薄い。	園や保育所などへの連携体制になれるようにアプローチが足りない。事業所や療育への理解が薄い。	現在園連携がとれるところは引き続き連携し、保護者様の希望に応じて連携についてアプローチしていく。 事業所や療育の事を知ってもらえるように資料や先生方とお話しする機会を設ける。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表日 2026年 1月 15日

利用児童数

17名

回収数

11名

事業所名		こどもサポート教室「きらり」姫路校									
		公表日 2026年 1月 15日									
		利用児童数				17名		回収数		11名	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	6			体を動かす事が好きなので少し運動スペースが小さいかなと思った。今の年齢では十分なスペースですが、年齢の大きい子はどうか。	バーテーションなどの配置を検討し、気候によっては外での活動も検討していく。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11								
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10			1	子どもの目線ぐらいの棚なので分かりやすいと思う。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	1							
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	1			支援員の方によって少しバラつきがあるように感じます。	日々の情報伝達を改めて見直し、職員間で認識を合わせていく。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11								
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	1			通い始めたばかりなので、お互い手探り状態なイメージ。今の状況に合わせて、無理の無いように考えられていると思う。				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11								
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11				子どものしたい事を否定せず、興味のあるもので刺激を与えてくれる環境作りと支援をしてくれている。				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	1			様々な活動内容になっていると思います。				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2	1	2	まだ皆と遊ぶより一人で遊んでいる。他の教室とのやりとりがある。通い始めたばかりなので経験がない。	今後交流していけるように事業所について周知していきたい。			
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11								
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2	1						
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	10	1			毎回フィードバックの時間があるので、色々話しやすい。				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	2		2	担当以外の方も気にかけて下さり、家での過ごし方の助言などいただけるので助かっている。				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	1		1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2		8	きょうだい向けのイベントを開催されているのかもしれないが、参加できていない。	今年は保護者様の同士のイベントを開催することが出来なかったため、今後機会を設ける事で保護者様のサポートを検討していく。きょうだい児のイベントを開催できたため、今後も促していきたい。			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9		2	利用の数時間前に相談したら対応してくださった。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11			毎日フィードバックがある。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9		2	Instagramでイベント等の活動など発信されてます。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10		1	SNS等では顔をかくしてアップされています。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8		3	避難場所(校区)まで避難訓練をされていた。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10		1	外での活動の時は手をつないで対応してもらった。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	1		毎度楽しそうに事業所に向かっていてと思います。親と離れても大丈夫なくらい、1人で活動出来ている。	今後も利用者様が安心して来所できる環境を整えていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10		1	事業所の前に着くと大急ぎで中に入ろうとしています。すごく楽しいようです。遊べる場所・玩具がいっぱいある所と認識している。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1		子どもの発達状況に合わせて楽しめるよう対応していただいていると思います。	至らないところもあるため、保護者様のご意見もいただく事でより良い事業所運営をしていきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」姫路校				
		公表日 2026年 1月 15日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		室内配置	狭く感じる事があれば近くの公園を利用したり、室内配置を工夫して行く。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		外階段前に段差がある。 必要に応じて職員が出て対応している。	場合によっては段差が障害物になるため、引き続き必要に応じて職員や物で対応していきたい。(複合のテナント)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価を利用していない。	今度必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		出来ている時とそうでない時がある。	改善点を随時見直していき、チームで連携していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		比較的出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		頻度は高くないが、必要に応じて実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		頻度は高くないが、必要に応じて実施している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		頻度は高くないが、必要に応じて実施している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			来年度の中で交流する機会を踏まえて計画を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援関係で職員間での方法や情報共有する機会を設けるなどを検討する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベントで両親・きょうだいの参加を促している。	今年度父母の会は開催が出来ていなかった。開催に向けて計画していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		玄関にチラシなどを置いている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			地域住民が関われる機会を踏まえた計画が出来ていなかったため、今後検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			